

令和2年度 事業報告

◎ 令和2年度事業の概要

当会は、市民一人ひとりのことばに耳を傾け、常に人権を尊重し、住み慣れた地域でその人らしく暮らすことができるよう、岩見沢市社会福祉協議会地域福祉活動計画に基づき事業を進めております。

令和2年度においては、これまで取組んでまいりました住民参加・協働による地域に根差したボランティア育成事業や市民が身近な地域における福祉について関心を持ってもらい、市民主体による福祉コミュニティ作りを押し進める予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、残念ながら思うように事業が実施できない事態となりました。

介護事業においては、目立った利用控えはないものの、新規利用者が伸び悩む状況になりましたが、コロナ禍においても利用者が安心して生活することができるよう、感染防止に努めながらサービス提供を維持してまいりました。

経営面においては、介護保険事業を中心に厳しい状況が続いていることから、7月に法人経営検討委員会を立ち上げ、令和6年度までの経営改善計画を策定し経営の健全化を目指すこととしました。

以下、令和2年度事業計画に沿った推進項目について報告します。

「重点事項」

● 運営基盤の強化と人材の育成

安定的な自主財源を確保するため、会員の募集を積極的に行った。

また、職員が業務に必要な専門知識と幅広い視野を持ち、主体的に実践する人材を育成するため各種研修会や講習会に参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため中止が相次いだ。

● 福祉サービス事業の推進及び経営の健全化

居宅介護支援事業、訪問介護事業、通所介護事業、相談支援事業、障がい児通所支援事業については、利用者の減少や新型コロナウイルスなどの影響もあり大変厳しい経営状態が続いている。

経営の健全化を図るため経営改善計画を策定した。今後、最終方針を基にサービス管理体制や経営形態等の見直しを行っていく。

● 災害ボランティアセンターの組織整備

被災地の社協職員として求められる役割や災害ボランティアセンターの役割についての理解を深めるとともに、北海道社会福祉協議会主催の圏域内災害ボランティアセンター設置・運営訓練を当市で行い、被災時における円滑なボランティアの受入れや活動支援体制の整備に努めた。

1 地域福祉の推進

新型コロナウイルスの影響により、多くの事業や講座の中止が余儀なくされたが、人と人とのつながりを絶やさないう、コロナ禍における地域福祉活動の再開に向けた情報提供及び活動支援を行うとともに、感染予防対策を行いながら、ボランティアの養成や権利擁護支援、さらに感染予防に配慮した災害時におけるボランティア受入れ訓練など、この状況下で出来ることを模索しながら事業の実施に努めた。

また、コロナの影響により、収入が減少した生活困窮者に対しての特例貸付業務や記録的大雪による除雪支援が必要な世帯へのボランティア活動支援など、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりの推進に努めた。

(1) 地域住民の声を反映できる課題把握と情報共有

①地域福祉懇談会の開催

当会が実施する地域福祉活動の理解促進と地域住民が抱える生活課題等の把握を目的に地域福祉懇談会の開催準備を進めていたが、新型コロナウイルスの影響により次年度に延期した。

②実施事業からのニーズ調査

各実施事業・講座ごとにアンケート調査を行い、ニーズに沿った事業展開や講座内容の充実を図るため、検討を行った。

□アンケート実施回数「地域ふれあいサロン活動団体」他6回

(2) 相談支援体制の充実

①各関係機関等との連携強化

様々な相談に対応するため、各相談機関の会議等に参加し、他の機関との連携強化に努めた。

□出席回数 15回「生活サポートセンターりんく支援調整会議」他

②民生委員・児童委員との連携

民協役員会及び定例会に参加し、各種事業の説明等を行うとともに、市民から寄せられる困りごとについて情報共有を図るなど、民生委員・児童委員との連携を深め、地域における相談支援促進に努めた。

③部署間横断の相談支援の充実

市民の日常生活上の様々な困りごとの相談に応じるため、社協内の他部門と情報共有・連携を図り、解決に向けた適切な助言・支援に努めた。

(3) 地域住民と共に進める支え合い活動や交流活動の促進

①小地域福祉ネットワーク活動事業

小地域（ふれあい推進協議会・地区協議会・町会等）を基盤として展開する、地域住民による見守り、安否確認活動や身の世話等の日常生活支援活動に対して助成を行い、地域における支え合い活動の活性化に努めた。

□助成金 2,947,780 円

②町会等除雪ボランティア活動支援事業（岩見沢市からの受託事業）

自力で除雪が困難な独居高齢者世帯や身体障がい者世帯等の要援護者世帯に対し、地域のボランティアによる玄関前等の除排雪活動に助成支援を行い、地域住民同士の支えあい活動の充実を図り、冬期間における要援護者世帯の日常生活の安全確保に努めた。

□対象世帯 1,224 世帯 助成金 6,693,040 円

③除雪ボランティア派遣事業

自力で除雪が困難かつ家族や親類または町会等からの協力が得られない高齢者世帯や身体障がい者世帯などの要援護者世帯に対して、除雪ボランティアを派遣し、間口の拡張や暖房器具の給排気筒等付近の除雪支援を行った。

□登録者 個人 17 人・団体 13 団体（227 人）

□支援世帯数 延べ 147 件

④地域ふれあいサロン事業

高齢者や障がい者及び子育て中の親子など、外出の機会が少ない方々の閉じこもり予防と安否確認や生活課題の把握等を目的に、世代を超えた誰もが参加できる地域交流活動の立上支援を行い、事業の活性化に努めた。

また、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら活動している団体に対し特別助成を行い、地域交流活動の促進に努めた。

□登録サロン数及び助成金額

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
登録サロン数	26 団体	29 団体	33 団体	28 団体	25 団体
助 成 金 額	588,000 円	682,000 円	782,000 円	424,000 円	118,000 円

□コロナ特別助成 16 団体 48,000 円

⑤地域ふれあいサロン活動者情報交換会・研修交流会【中止】

新型コロナウイルスの影響により中止したが、登録サロン団体に対し、コロナ禍におけるサロン活動状況アンケート調査を行うとともに、調査結果及び感染防止対策を行いながらの活動ヒント集を作成・配布した。

⑥レクリエーション用具貸出事業

地域交流の促進と活性化を図ることを目的に、町会・自治会、ボランティア団体及びふれあいサロン等に対し、レクリエーション用具を無料で貸出すこととしていたが、新型コロナウイルスの影響により貸出実績がなかった。

□貸出件数 0 件

⑦福祉団体等の活動支援

障がい者等の福祉団体へ活動費助成を行い、団体の使命や特徴を活かした活動の活性化に努めた。

□福祉団体助成 8 団体 240,000 円

⑧やさしい在宅介護講習会

在宅介護に係る講話や一般的な介護方法等について演習等を行い、家庭や地域で孤立することなく豊かな生活を送るための一助として、介護知識・技術の向上及び在宅で介護に取り組む方々の日常の悩みや負担の軽減に努めた。

□9月25日・29日 参加者9人

⑨高齢者趣味と教養・健康増進支援事業

岩見沢市老人クラブ連合会主催の各種事業に対し助成を行い、高齢者が個々の技能や趣味を活かした社会参加活動を通じ、仲間づくりや生きがいの場づくりが図れた。

□11月20日・21日 囲碁将棋大会 助成金20,000円 参加者22人

□岩見沢市高齢者文化祭・岩見沢シニア交流大会 中止

⑩金婚祝賀会開催事業

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、祝賀会を中止し、金婚該当者に対して、お祝いメッセージと記念品を郵送して祝福した。

□該当者 184組 (368人)

□お祝いメッセージ (市長・実行委員長名)

□記念品 花かいろうペアカップ (定価2,200円)

(4) 地域福祉への理解促進

①地域福祉出前講座

町会・自治会をはじめとする福祉団体等からの要望に沿って、当会職員等が講師となり「地域福祉出前講座」を実施し、地域住民の福祉に対する理解や関心を深めた。

□出前件数 2件

□内 容 「生活福祉資金貸付制度について」他

②社会福祉功労者表彰の実施及び推薦

地域福祉活動及びボランティア活動に永年にわたり功労のあった個人・団体や当会に多額の寄付をされた方、市内の福祉団体・施設において永年にわたり勤務された方に対して、その功績を讃え、表彰式を執り行う予定でありましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため理事会で表彰式の中止を決定し、被表彰者には表彰状を郵送することで対応した。令和2年度から記念品を廃止。

また、活動を通じて社会福祉に貢献された市内各社会福祉関係者及び団体を岩見沢市の福祉活動功労者表彰をはじめ、北海道社会福祉協議会会長表彰などへ推薦を行った。

(7) 岩見沢市社会福祉協議会 社会福祉功労者表彰

(敬称略)

功労表彰	善行感謝	ボランティア 功労賞	永年勤続表彰
飛 世 秋 夫	非 公 開	土 岐 志 津 江	千 葉 美 樹
菊 池 和 子	非 公 開	河 岸 君 江	平 間 伶 奈
清 水 ヒサ子	柳 川 忠		長谷川 佑 輝

吉本和子	内海末男		野田聖志
荒川良子	金子清子		堀利多
鵜川智江	菊地秀則		上野慎太郎
崎山幸恵	松平忠		杉本純一
	高木秀典		谷口しのぶ
	宇津稔		清水敬太

功労表彰（7人）・善行感謝（9人）・ボランティア功労賞（2人）・永年勤続表彰（9人）

(イ) 岩見沢市福祉活動功労

水野 向子・甲田 孝子

表彰式中止

(ウ) 北海道知事表彰

井上 早苗（民生委員・児童委員功労）

表彰式中止

(エ) 北海道社会福祉協議会会長表彰

大西 拓也・横田 明（社会福祉協議会役員功労）

表彰式中止

(オ) 北海道共同募金会会長表彰

手話サークル「エプロン」（共同募金運動優秀団体）

表彰式中止

(カ) 北海道社会貢献賞

岩見沢さつきの会（地域活動推進功労者）

10月23日 北海道庁別館

(キ) 全国社会福祉協議会会長表彰

松田 美羽音（社会福祉協議会・民間社会福祉団体功労）

表彰式中止

(ク) 札幌キワニスクラブ社会公益賞

ボランティアサークル「ひとみの会」

7月14日 京王プラザホテル札幌

(5) ボランティアセンターの機能充実

① ボランティアセンター運営事業

市民から寄せられるボランティアに係る相談支援やボランティア派遣のコーディネートを行うとともに、ボランティア活動に関する市民の関心と理解を深めるため、情報誌やホームページ等を活用した情報発信を行いボランティア活動の促進に努めた。

また、ボランティアセンター運営委員会及び運営部会を開催し、各関係機関等との協力関係を深め、ボランティアセンター運営の充実に努めた。

運営委員会の開催（年2回）

運営部会の開催（随時）

定例会の開催（月1回）

(7) ボランティア登録団体・個人数

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
登録団体数	26 団体	27 団体	27 団体	29 団体	26 団体
登録個人数	17 人	14 人	16 人	17 人	11 人

(イ) ボランティア相談・連絡調整件数

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
相談件数	23 件	19 件	43 件	33 件	10 件
連絡調整件数	14 件	15 件	36 件	31 件	2 件

(ウ) ボランティア派遣支援

新型コロナウイルスの影響により、各イベントの中止や福祉施設等のボランティア受入れの自粛などの状況を踏まえ、ボランティア活動者の感染リスクを考慮し、ボランティアの派遣支援を自粛した。

派遣人数 0 人

②広報紙「おもいあい」の発行

ボランティア活動に関する市民の関心と理解を深めるため、ボランティアセンター広報部会によるボランティアセンター広報紙「おもいあい」を市内の公共機関等に設置し、ボランティア情報及び活動の周知啓発に努めた。

発 行 1 回発行（3 月号）※中止：6 月・10 月号

発行部数 1,500 部

③各種研修事業への参加促進

新型コロナウイルスの影響により、各研修会等が中止となったが、オンラインによる会議に参加し、ボランティアに係る先進的事例等の情報収集や研究討議、交流を通じて、ボランティア活動の資質向上に努めた。

開催日	研修会等名	参加者数
9 月 12 日	ボランティア愛ランド北海道 2020in えべつ	中止
11 月 17 日	令和 2 年度空知地区ボランティア活動推進会議	書面審議
11 月 17 日	令和 2 年度空知地区ボランティア活動推進セミナー	中止
2 月 16 日	令和 2 年度ボランティア強化セミナー（オンライン）	1 人

(6) 地域を支えるボランティアの育成

①各種ボランティア養成講座の開催

ボランティア活動に関心や興味のある方を対象に、新型コロナ感染予防対策を講じたボランティア養成講座を開催し、新たなボランティア人材の発掘と育成に努めた。

(7) 傾聴ボランティア講座

傾聴についての知識と技術や心構えなどを学び、傾聴に対する理解促進と地域や施設において活動する傾聴ボランティアの養成を行った。

□10月21日・11月4日・18日（全3回） 受講者 15人

(イ)音訳ボランティア講座

視力障がい者に対する理解と音訳についての知識と技術等を学習し、視力障がい者を支援する音訳ボランティアの人材育成に努めた。

□11月6日・13日・20日（全3回） 受講者 6人

(ウ)ボランティアの活動支援事業

登録ボランティア団体・個人が安心して活動するために、ボランティア活動保険料の助成やボランティアに関する情報提供を行い、活動の促進を図った。

さらに、被災地支援ボランティア活動者及び当会除雪ボランティア活動者に対して保険料の助成を行い、被災地復興ボランティア支援の促進を図った。

□ボランティア団体助成 18団体 180,000円

□ボランティア活動保険 個人69人（一般14人・災害40人・除雪15人）
25団体（521人）

□ボランティア行事用保険 2団体（除雪12人）

(エ)はじめてのボランティア講座 【中止】

(オ)精神保健ボランティア講座 【中止】

(カ)手話奉仕員養成講座 【中止】

(キ)ボランティア活動者研修会・交流会 【中止】

※(エ)～(キ)については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

(7) 将来を見据えた福祉教育の推進

①学童・生徒のボランティア活動普及事業

小・中・高等学校の学童・生徒の社会福祉への関心と理解を高め、実践活動によりボランティアの心と社会連携の精神を養うことを目的に、各学校に対し福祉教育のボランティア活動実践活動費の助成支援を行った。

□小・中・高等学校 24校 助成金 480,000円

②児童・生徒のボランティア体験研修会 【中止】

児童・生徒部会において開催の可否について協議した結果、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。

③指定地域福祉教育セミナー 【中止】

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。

④地域福祉教育推進事業

学校からの福祉体験学習の要請に応じ、障がい当事者及びボランティアを講師派遣し、効果的な学習を実施することで、ノーマライゼーションの理念普及に努めた。

□派遣人数派遣人数 16人

【福祉体験学習実施状況】

	実施日	学校名	学年・人数	学習内容
1	8月 6日	豊中学校	3年生46人	車いす利用者との交流、車いす体験
2	3月 5日	中央小学校	4年生61名	聴覚障がい者の講話、手話体験
3	3月 8日	第一小学校	3年生71名	聴覚障がい者の講話、手話体験
4	3月18日	北村中学校	1年生10名	聴覚障がい者の講話、手話体験
合計		4校	188人	

【新型コロナウイルス感染防止の観点から中止】

	実施予定日	学校名	学年・人数	学習内容
1	11月17日	北真小学校	6年生22名	聴覚障がい者の講話、手話体験
2	11月25日	中央小学校	3年生62名	聴覚障がい者の講話、手話体験
3	11月26日	中央小学校	3年生62名	視覚障がい者の講話、ガイド体験
4	11月27日	緑中学校	全学年250名	聴覚障がい者の講話、手話体験
5	12月 1日	日の出小学校	3年生51名	視覚障がい者の講話、ガイド体験
6	12月 2日	日の出小学校	1年生52名	目のハンディキャップ講話、体験
7	12月 3日	日の出小学校	2年生50名	目のハンディキャップ講話、体験
8	12月 8日	日の出小学校	6年生60名	視覚障がい者の講話、点訳体験
9	12月10日	第一小学校	4年生62名	視覚障がい者の講話、ガイド体験
10	12月11日	志文小学校	5年生48名	聴覚障がい者の講話、手話体験
11	12月14日	美園小学校	3年生73名	聴覚障がい者の講話、手話体験
12	12月15日	北真小学校	6年生22名	車いすについて講話、車いす体験
13	12月18日	日の出小学校	4年生55名	車いすについて講話、車いす体験
14	2月	志文小学校	5年生48名	視覚障がい者の講話、点訳体験
合計		14校	917人	

⑤市内高等学校の生徒を中心としたボランティア活動への支援や協力

農業高校ボランティア・ユネスコ部、緑陵高校ボランティア部、東高校ボランティア部、西高等学校生徒会執行部、高等養護学校生徒会執行部の5高校の生徒が行う「第9回復興支援東北の物産販売高校生プロジェクト in 岩見沢」に協力をを行い、高校生のボランティア活動や社会参加活動についての取組みを支援した。

□カタログ販売 市内15機関・団体等へ配布

□寄付金額 700,000円

(8) 地域における権利擁護の推進

①日常生活自立支援事業

認知症、知的障がい及び精神障がい等により、判断能力が不十分で日常生活に支障のある方に対し、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理等の支援を行い、日常生活の自立支援に努めるとともに、事業の普及啓発に努めた。

(7) 利用契約者件数

区 分	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合 計
相 談 件 数	958 件	214 件	507 件	5 件	1,684 件
新規利用契約件数	3 件	0 件	1 件	0 件	4 件
解 約 件 数	2 件	1 件	2 件	0 件	5 件
利用契約件数	6 件	4 件	8 件	0 件	18 件
生活支援員数	33 人（実働 15 人）				
社 協 預 かり	通帳 14 冊・印鑑 0 本				

(イ) 生活支援員研修交流会

新型コロナウイルスの影響により中止した。

(ウ) 北海道地域福祉生活支援センター指揮監督者・自立生活支援専門員・生活支援員研修会【空知地区】への出席

内 容	自習期間	受講者
新型コロナウイルスの影響により、各自の自習にて実施。北海道社会福祉協議会が作成した生活支援員研修（自習）テキストをもとに学習し、参加者の任意で自習レポートを提出。	令和 2 年 11 月 19 日 ～令和 3 年 1 月 25 日	自習レポート 提出者 2 名

(エ) 普及啓発

周知内容	周知媒体
生活支援員の活動紹介、生活支援員募集の記事掲載	いわみざわ社協だより 第 138 号 (令和 2 年 7 月号)

② 成年後見支援センター事業

誰もが住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らせる地域づくりを目指すため、認知症や知的・精神障がい等により判断能力が十分でない方が成年後見制度を適切に利用できるよう成年後見支援センターの安定的かつ適切な運営に努めた。

また、市民後見人の活動支援として法人後見事業を実施し、関係機関、専門職、行政等との連携のもと、法人後見支援員と協働し、要支援者への適切な身上監護、財産管理を行った。

その他、市民の成年後見制度に対する理解や関心を高めるため、普及啓発に関する取り組みを行った。

(7) 相談・申立手続支援実績

・相談件数

相 談 状 況	新規相談	86 件	計 617 件
	継続相談	531 件	

・相談内容

相 談 状 況 (重 複 あ り)	法定後見	469 件	計 675 件
	任意後見	7 件	
	日常生活自立支援事業	26 件	
	相続・遺言	19 件	
	市長申立	41 件	
	介護・福祉サービスの手続き	21 件	
	財産管理	17 件	
	虐待	5 件	
	借金	5 件	
	その他	65 件	

・申立手続支援

今年度中に申立に 至 っ た 件 数 (実 件 数)	本人申立 (うち、弁護士等書類作成代行申立)	1 件 (1 件)	計 7 件
	親族申立 (うち、弁護士等書類作成代行申立)	2 件 (2 件)	
	市長申立	4 件	

(イ) 成年後見支援センター運営協議会・事例検討会

会 議 名	開 催 日
第 1 回成年後見支援センター運営協議会	令和 2 年 7 月 8 日
第 2 回成年後見支援センター運営協議会	令和 2 年 10 月 27 日
第 1 回成年後見支援センター事例検討会	令和 2 年 5 月 28 日
第 2 回成年後見支援センター事例検討会	令和 2 年 8 月 27 日
第 3 回成年後見支援センター事例検討会	令和 2 年 10 月 27 日
第 4 回成年後見支援センター事例検討会	令和 3 年 2 月 26 日

(ウ) 市民後見人の養成と活動支援

・市民後見人養成講座

事 業 名	開 催 日	受講者数	修了者数
市民後見人養成講座 (基礎編)	令和 2 年 11 月 24 日～12 月 15 日 毎週火曜日 全 4 日間	13 人	13 人
市民後見人養成講座 (フォローアップ編)	令和 3 年 1 月 19 日～2 月 16 日 毎週火曜日 全 5 日間	12 人	12 人

・法人後見受任状況

新規受任件数	3 件
受任終了件数	2 件
継続受任件数	12 件
累計受任件数	16 件

・法人後見支援員の登録と活動状況

法人後見支援員新規登録者数	0 名 ※新型コロナウイルスの影響により登録選考は翌年度に持ち越し。
法人後見支援員登録抹消者数	1 名
法人後見支援員全登録者数	35 名
法人後見支援員活動者数（年度末時点）	20 名
法人後見支援員活動回数（延べ）	152 回
法人後見支援員活動人数（延べ）	217 人
職員活動件数（延べ）	849 件

・法人後見支援員スキルアップ研修会

内 容	自習期間	受講者
講義「岩見沢市における法人後見支援員活動の現状について」 講師 岩見沢市成年後見支援センター 相談支援員 清水 敬太 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講義を動画撮影し、DVD視聴による各自の自習形式で実施。自習レポートの提出により本研修の受講とした。	令和3年3月3日 ～3月25日	33 名

・法人後見支援員自主活動グループの設立

法人後見支援員登録者の継続的な資質向上、活動意欲の維持・向上、登録者間の交流・情報交換の機会を設け、よりよい活動の推進に寄与することを目的に、法人後見支援員の自主活動グループ「岩見沢市民後見人の会」の設立に向けて設立総会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、中止した。

(エ) 普及啓発

・成年後見制度講演会

開催日時	令和3年3月13日（土）14時00分～16時00分
開催場所	岩見沢市民会館・文化センター「まなみーる」中ホール
内 容	創作落語「天国からの手紙」 講演「よくわかる遺言・相続と成年後見制度の話」

	講師 行政書士（きよみ行政書士事務所）／社会人落語家 生島 清身 氏（高座名：天神亭 きよ美）
参加者数	94人

- ・ 出前講座講師対応（依頼テーマ：成年後見制度について等）

団体名	実施日	参加者数
精神保健ボランティアサークル友（YOU）	令和2年9月12日	12人
計1か所		計12人

- ・ その他周知啓発活動

周知内容	周知媒体
市民後見人活動特集、市民後見人養成講座（基礎編） 記事掲載	広報いわみざわ （令和2年11月号）
成年後見制度講演会記事掲載	広報いわみざわ （令和3年3月号）
成年後見制度に関するQ&A記事掲載	いわみざわ社協だより 第139号 （令和2年12月号）
成年後見支援センター主催事業の記事掲載 ・ 市民後見人養成講座（基礎編・フォローアップ編） ・ 成年後見制度普及啓発講演会	本会ホームページ

（9）生活困窮者等への支援

①生活福祉資金貸付事業（北海道社会福祉協議会委託事業）

他の貸付を受けることができない、低所得者や高齢者、障がい者の世帯に対し、民生委員・児童委員等と連携し、必要な資金の貸付と相談支援を行うとともに、岩見沢市生活サポートセンターりんく等の関係機関と連携し、生活困窮者世帯の経済的自立や生活意欲の助長促進を図った。

また、新型コロナウイルスの影響により、休業等により収入の減少があり、日常生活の維持が困難となった世帯に対し、緊急小口資金及び総合支援資金の特例貸付を行った。

□貸付件数及び貸付金額

資金名	資金の種類	件数	貸付金額
福祉資金	緊急小口資金	16件	1,440,000円

□特例貸付件数及び貸付金額（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

資金の種類	件数	貸付金額
緊急小口資金【特例貸付】	400件	6,799,000円
総合支援資金【特例貸付】	254件	126,672,000円
合計	654件	133,471,000円

②愛情銀行緊急生活費交付事業

やむを得ない事情により、緊急に生活費が不足した世帯に対し、緊急生活費の貸付支援を行った。

□6件 71,500円

③法外援護事業

生活保護申請から決定までの生活つなぎ資金貸付及び金銭不所持者等の送還旅費の交付を市福祉事務所を通じて行った。

□生活つなぎ資金 41件 345,000円

□送還旅費 5件 5,830円

(10) 災害ボランティアセンターの組織整備【重点】

①災害ボランティアセンター体制の整備

道社協主催の圏域内災害ボランティアセンター設置・運営訓練を当市で受入れし、開催地社協として全面的に協力するとともに、岩見沢市や北海道社会福祉協議会、空知管内社会福祉協議会、ボランティア等と連携した、災害ボランティア活動者の円滑な受入れや活動に向けた組織体制の整備に努めた。

□圏域内災害ボランティアセンター設置・運営訓練

日 程：令和2年10月10日（土）

内 容：ニーズ受付訓練

災害ボランティアセンター運営シミュレーション

参加者：46人（内 岩見沢社協14人・ボランティアセンター3人・岩見沢市役所3人）

②災害用資機材の整備

赤い羽根共同募金からの助成を活用し、災害ボランティアセンター運営に必要な資機材の整備を行った。

□購入品 折りたたみ式リアカー 1台（積載荷重150kg）

高圧洗浄機 2機

□購入金額 101,520円（リアカー63,800円・高圧洗浄機 37,720円）

□助成金 赤い羽根共同募金（全道・広域配分金）から71,000円

(11) 共同募金運動への協力

共同募金運動における新型コロナウイルス感染予防に係るガイドラインを作成し、感染予防対策を行いながらの各種募金活動を実施するとともに、市の花（バラ）と赤い羽根をコラボした岩見沢市限定の寄付金付ピンバッジを制作し、企業や関係団体等に協力及び共同募金への理解促進を図り、地域福祉活動の財源である共同募金運動の推進に努めた。

また、全国各地で発生した大規模災害の義援金の受付窓口として協力をホームページ等で周知した。

①実績額

区 分	令和2年度	令和元年度	増 減
赤い羽根共同募金	7,574,000 円	8,134,053 円	△560,053 円
歳末たすけあい運動	6,614,000 円	7,174,190 円	△560,190 円

2 運営基盤の強化と人材の育成【重点】

会費や寄付金、共同募金の配分金が減少傾向をたどっており、収支が悪化しているため、更なる業務の効率化やコスト削減を行うとともに、安定的な自主財源の確保のため、岩見沢市商工会議所加盟の各企業等に企業会員・特別会員の納入を依頼し新規会員の増に努めた。

(1) 社会福祉協議会を取りまく動向等の調査、検討

①福祉情勢の把握

北海道社会福祉協議会や北海道社協職員連絡協議会等が主催する講習会や研修会の参加を予定していたが、新型コロナウイルス感染症のため中止となる。

②地域課題の把握と他社会福祉協議会との連携

空知管内社会福祉協議会連絡協議会をはじめとした他社会福祉協議会と連携し情報交換した。

(2) 人材の育成

①職階別に応じた研修の実施

役員の外部研修や、職員の管理指導体制を構築するため経験年数や能力等に応じた役割を担うよう、管理職のマネージメント能力を強化する階層別の管理者向け研修会等の参加を計画していたが、新型コロナウイルス感染症のため研修会の中止が相次いだ。

②各種研修会・講習会等への参加

新型コロナウイルス感染症のため各種研修会・講習会が中止となった。

③職場研修の実施

- ・社協連絡会
- ・メンタルヘルス研修会
- ・ホームヘルパー内部研修
- ・ケアマネージャー内部研修
- ・ボランティアセンター定例会

(3) 財源確保への取組

①社協会員加入の促進

社会福祉協議会の活動に対する理解者を増やすとともに、自主財源を確保するため、会員の募集を積極的に行い、岩見沢市商工会議所加盟の各企業等に依頼し新規会員の

増に努めた。

また、岩見沢市共同募金委員会作成のピンバッチを利用し募金推進に努めた。

内 容		金 額
香典返し寄付金	35 件	1,350,000 円
一般寄付金	27 件	1,240,060 円
一般会員（1 世帯年額 100 円 222 町会 26,599 世帯）		2,659,900 円
特別会員（1 口年額 5,000 円 52 団体 80 口）		400,000 円
賛助会員（1 口年額 1,000 円 309 人 476 口）		476,000 円
企業会員（1 口年額 10,000 円 40 社 43 口）		430,000 円
共同募金	赤い羽根共同募金	7,574,000 円
	歳末たすけあい	6,614,000 円

②共同募金活動の効果的な展開

岩見沢市共同募金委員会と連携・協働を図り、コロナ禍の状況のなか、岩見沢市共同募金委員会で作成した「共同募金における新型コロナウイルス感染予防に係るガイドライン」に基づき、街頭募金を始め、各種募金活動を行うとともに、岩見沢市商工会議所加盟の各企業等に対し、寄付金付きピンバッチ頒布や募金箱・赤い羽根自動販売機の設置及び法人募金の協力依頼を行い、新規の募金協力先の開拓に努めた。

また、市内イベントが中止となったことから、各団体・機関等の会合に出席し、共同募金の理解と協力を呼びかけ、共同募金運動の推進に努めた。

3 社会福祉協議会の活動への理解促進

広報活動の強化・充実を図るため、社協だよりの発行等の事業を行った。

(1) 広報活動の充実

①「社協だより」の発行

地域福祉活動の取組について広く市民に理解を得るため、「社協だより」の紙面の工夫や内容の充実を図るとともに、全世帯に配付することで当会事業の具体的な内容と福祉情報を広く周知した。

□発行回数 年3回（7・12・3月）

□発行部数 各回35,000部

②ホームページを活用した情報発信

社会福祉協議会事業計画や事業報告、予算、決算等関係書類、附属明細表等について情報発信するとともに、各種事業の取組や講座開催などの情報をいち早く提供した。

4 日常生活用具の助成・物品貸出事業

(1) 日常生活用具の助成

日常生活を営む上で、生活用具が必要と認められた方に助成を行った。

また、市民の温かい善意と思いやりによる金品の寄付及び預託を受け、真に必要なとする方々への提供を行った。 別紙資料

□杖助成 13人

□アイスピック助成 12人

(2) 物品貸出事業

一時的に車椅子が必要になった方や、福祉教育等に車椅子の貸出を行うとともに、イベント等に行事用テントやレクリエーション用具の貸出を行った。

□車椅子貸出状況

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
件数	106 件	112 件	94 件	88 件	53 件
台数	232 台	180 台	185 台	215 台	65 台

5 施設の適正な管理運営

岩見沢広域総合福祉センターについては、地域福祉活動の拠点施設として活用されるよう、福祉・ボランティア団体等の利用者の利便性向上に努めた。

また、岩見沢市から指定管理者として管理や運営を実施している「岩見沢市高齢者福祉センター」、「岩見沢市栗沢福祉センター」、「栗沢デイサービスセンター」については、公共施設としての設置目的を踏まえながら、利用者にとって親しみやすい施設となるよう、適正な管理運営に努めた。

全ての施設において、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用者の検温・消毒の徹底・名簿の提出等の対策を取りながら開館した。

(1) 岩見沢広域総合福祉センター

①開館時間及び休館日

(ア) 開館時間 午前 9 時～午後 9 時

(イ) 開館日数 319 日

新型コロナウイルスの影響で休館

(令和 2 年 4 月 20 日～5 月 6 日まで)

(ウ) 休館日 毎月第 2、第 4 日曜日及び 12 月 29 日～翌年 1 月 3 日

②消防避難訓練等の実施

新型コロナウイルス感染症拡大のため未実施

③施設の改修・修繕

(ア) 講習室畳入替

- (イ) マンホール内油配管一部取替工事
- (ウ) エレベーター部品交換
- (エ) 会長室壁紙張替

④年度別利用人員及び年度別年間使用料収入状況

区分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
利用人員	46,003 人	44,372 人	29,926 人
1日平均利用人数	137.3 人	132.1 人	89.3 人
使用料収入	983,450 円	994,890 円	848,540 円

⑤ 年度別用途別利用数

(単位：件)

区分	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	有料	無料	有料	無料	有料	無料
会 議	59	368	67	334	33	279
集 会	2	2	1	0	0	1
講 習	165	209	48	123	10	19
研 修	37	79	12	57	1	12
例 会	167	201	353	242	219	140
そ の 他	24	423	12	476	11	404
小 計	454	1,282	493	1,232	274	855
社協・町連 母子寡婦福祉会 更生保護サポートセンター	414	1,378	406	1,340	395	1331
合 計	3,528		3,471		2,855	

(2) 岩見沢市高齢者福祉センターふれあい (指定管理施設)

①開館日及び利用時間

受 託 日	平成 31 年 4 月 1 日
開 館 日	月曜日～土曜日まで (部会活動は月曜日から金曜日まで)
開 館 日 数	269 日 ※新型コロナウイルスの影響で休館 (令和 2 年 2 月 26 日～4 月 5 日、5 月 1 日～5 月 18 日まで) ※入浴 (令和 2 年 2 月 26 日から休止中)
利用時間帯	午前 9 時～午後 5 時まで

②利用者数

区 分	一般		部会等		合計	
利用人数	1,377人		7,560人		8,937人	
男女別利用人数	男性	980人	男性	3,960人	男性	4,940人
	女性	397人	女性	3,600人	女性	3,997人
1日平均	5.1人		28.1人		33.2人	

③趣味と教養部会利用状況

部会名	利用回数	利用人数	部会名	利用回数	利用人数
カラオケ部会	0回	0人	民謡踊部会	33回	507人
俳句部会	10回	73人	華道部会	6回	59人
太極拳	19回	105人	コスモスの会	0回	0人
卓球部会	37回	1,333人	ふまねっと部会	17回	132人
書道部会	22回	206人	こぶしクラブ	36回	367人
太鼓部会	15回	125人	手芸部会	28回	151人
木彫部会	1回	1人	陶芸部会	89回	1,677人
剣詩舞吟遊会	6回	40人	囲碁同好会	40回	1,289人
ダンス部会	1回	10人	将棋愛好会	35回	400人
茶道部会	12回	53人	小 計	447回	7,253人
謡吟会	0回	0人	パソコン教室	15回	142人
いきいきサークル	40回	725人	オモチャの病院	43回	165人
合計				505回	7,560人

④主な行事

(ア)趣味と教養部会【中止した行事】

- ・展示発表・舞台発表・呈茶席・ふまねっと体験教室

(イ)その他【中止した行事】

- ・土曜初心者陶芸教室
- ・ビデオ映画上映会
- ・健康相談
- ・ふれあいコンサート・カラオケの集い
- ・高齢者福祉センター「ふれあいまつり」
- ・移動心配ごと相談所
- ・センター大掃除
- ・お楽しみ会
- ・市老連女性部健康体操

(3) 岩見沢市栗沢福祉センター（指定管理施設）

受託日	平成31年4月1日
営業日	月曜日～金曜日まで（祝日を除く）
開館日数	224日 ※新型コロナウイルスの影響で休館 （令和2年4月1日～4月5日、4月20日～5月17日）
時間	9時00分～17時30分まで
利用人数	年間910人　1日平均　4人
職員配置	嘱託職員1人（支所業務と兼務）
利用団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栗沢更生保護女性会・岩見沢市老人クラブ連合会栗沢地区協議会 ・ いちいの会・岩見沢市赤十字奉仕団栗沢班・フラサークルハウオリ ・ 栗沢サロン・親子ひろば・岩見沢市健康づくり推進課・栗沢手話サークル ・ 民生委員児童委員協議会 12方面

(4) 栗沢デイサービスセンター（指定管理施設）

受託日	平成31年4月1日				
区分	指定通所介護・第一号通所介護事業（予防通所介護相当）【通常規模型】				
定員	月～金曜日 30人(1単位目) 土曜日 20人(2単位目)				
利用人数		年間	月、火、木、 金	土	
	営業日数	258日	207日	51日	
	実人数	654人			
	延人数	4,729人	4,183人	546人	
	1日平均		20.2人	10.7人	
職員登録人数 (3月31日現在)	管理者（兼務） 臨時介護員	1人 9人	生活相談員 3人 臨時看護師 4人	介護員（兼務） 臨時運転手	1人 3人
サービス提供 時間帯配置基準	月・火・木・金 土曜日	職員配置基準 8人 職員配置基準 6人			
営業日	週5日⇒月・火・木・金・土（祝日を含む） （日曜日及び12月31日から1月3日まで休業）				
時間	8時30分から17時45分まで 【サービス提供時間帯】9時15分～16時30分の7.25時間				
介護内容	日常生活上の援助 （排泄の介助、移動の介助、その他必要な身体介護） 入浴の介護、機能訓練、送迎、食事の介助、相談・助言、 介護の指導、運動機能向上訓練				

利 用 料	介護報酬の告示額による ・法定代理受領分(国保連合会) ・法定代理受領分以外(個人負担)
そ の 他 の 費 用	食費(1回につき 590 円)、行事食(1回につき 640 円) お茶・おやつ代(1回につき 100 円) オムツ代(実費)、その他通常必要なもの
区 域	岩見沢市全域

6 福祉サービス事業の推進及び経営の健全化【重点】

当会が実施している居宅介護支援事業、訪問介護事業、通所介護事業は、利用者の減少などにより減収となり、大変厳しい経営状況が続いていることから、経営改善計画を策定し、職員体制、サービス管理体制、運営形態等の見直しを行い、最終方針を基に、経営の健全化を目指すこととした。

令和2年度は、コロナ禍においても利用者が安心して生活ができるよう、感染防止と利用者の体調変化に配慮しながら、サービス提供の維持に努めた。

また、新型コロナウイルスや大雪の影響により障がい児通所支援事業も利用者が減少した。

近年増加している高齢者虐待ケース等の困難な事例については、地域包括支援センターや市役所等の関係機関と連携し、積極的な支援を行い、発達に遅れや心配のある乳幼児・児童やその保護者が、日常的に適切な相談指導や療育を受けることができるよう、各関係機関と連携し支援に努めた。

(1) 居宅介護支援事業

要介護者の意向に添い自立した在宅生活が続けられるように、居宅サービス計画書(ケアプラン)作成や介護サービスに係る連絡調整等に努めた。

また、特定事業所加算Ⅱを算定できる体制として、定期的な会議の開催や地域包括支援センターから困難事例の受入れを行い、1人/月 4,000 円の加算を算定出来るように努めた。

	令和2年度	令和元年度	増 減
要介護利用者数	2,896 人	3,013 人	△117 人
予防利用者数	723 人	810 人	△87 人
要介護月平均利用者数	241.3 人	251.0 人	△9.7 人
予防月平均利用者数	60.3	67.5 人	△7.2 人

(2) 訪問介護事業

①訪問介護事業と介護予防・日常生活支援総合事業

日常生活に支障のある高齢者等に対し、介護保険による訪問介護計画書に基づき訪問介護員を派遣し、利用者の習慣や意向を尊重し、可能な限り在宅においてその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、生活全般にわたる訪

問介護のサービスを提供するとともに、サービス提供責任者が定期的に利用者宅を訪問し、利用者や家族等の要望を的確にとらえ評価を行い、サービスの向上を図った。

また、要支援者に対し介護予防・日常生活支援総合事業による切れ目のないサービス提供により在宅生活の支援に努めた。

	令和2年度	令和元年度	増減
利用者数	1,300人	1,354人	△54人
延利用回数	9,306回	9,260回	46回
月平均利用人数	108.3人	112.8人	△4.5人
月平均利用回数	775.5回	772.0回	3.5回

②居宅介護事業

日常生活に支援が必要な身体障がい者及び知的障がい者並びに精神障がい者に対し、障がい者総合支援法によるサービス利用計画に基づき、居宅介護従事者を派遣し、利用者が可能な限り、自宅で日常生活を営むことができるように支援を行った。

また、居宅介護計画書に基づき利用者のニーズに沿ったきめ細やかなサービス提供を行い、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスと綿密な連携を図り、総合的なサービス提供を行った。

	令和2年度	令和元年度	増減
延利用者数	267人	317人	△50人
延利用回数	1,891回	2,069回	△178回
月平均利用人数	22.2人	26.4人	△4.2人
月平均利用回数	157.5回	172.4回	△14.9回

③相談支援事業

障がい者及びその家族に対し、障がい福祉サービスに関する不安をなくし、将来、自立した社会生活を営むことができるようにニーズの整理や情報の提供、サービス等利用計画の作成やモニタリングを行い、サービスの調整等の適切な相談支援を行った。

また、発達に遅れや障がいのある乳幼児・児童とその保護者に対し、関係機関との連携のもと、サービス等利用計画の作成やモニタリングを行い、個々のニーズに即したサービスの調整を図った。

しかし、コロナ禍で通所施設につながる利用者が減り、相談件数も少なく、認定調査を取りやめることも多かったため、全体的に利用件数が減少した。

		令和2年度	令和元年度	増減
障 が い 者	利用計画	72件	132件	△60件
	月平均	6件	11件	△5件
	モニタリング	212件	231件	△19件
	月平均	17.6件	19.2件	△1.6件
	認定調査	9件	17件	△8件

障 が い 児	利用計画	172 件	200 件	△28 件
	月平均	14.3 件	16.7 件	△2.4 件
	モニタリング	131 件	153 件	△22 件
	月平均	10.9 件	12.8 件	△1.9 件

(3) 通所介護事業

令和2年度から美流渡デイサービスセンターを栗沢デイサービスセンターに統合し、美流渡地区の利用者の一部を栗沢デイサービスセンターで受け入れた。

栗沢デイサービスセンターも多額の赤字経営が続いており、統合によりスタッフの充実を図ることで、短縮していたサービス提供時間を元に戻すことができたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、介護講座や地域住民が参加する行事などは実施できなかった。

①利用者を増やす努力

入浴サービスや食事の提供だけではなく、利用者にとって楽しく過ごすことができるデイサービスを目指して「栗沢デイサービスは楽しい、面白い」と、地域やサービス事業所等で評判になるよう職員一丸となってサービスの提供に努めた。

また、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に、利用状況の写真やデイサービス通信等を配布し、栗沢デイサービスセンターのPRを継続的に行った。

②個別的なサービスの提供

利用者には様々な疾病や障がい等があるため、個々の身体状況や生活環境、ニーズ等を把握し、その方に寄り添ったサービス提供に努めた。

また、栗沢デイの特色としてセラバンドやボール体操の機能訓練を実施し、レクリエーション活動の他にも畑作業なども行った。

③地域福祉の拠点づくり

地域福祉の拠点として地域の方々に来ていただくような事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施できなかった。

④広報活動

デイサービス通信を町内会等で回覧し、栗沢デイサービスセンターの取り組みを栗沢地域の多くの方々にPRした。

⑤働きやすい職場づくり

職員一人ひとりがお互いを認め合い、補い合いながら気持ちよく働くことができるような職場環境作りに努めた。

区 分		令和2年度	令和元年度	増 減
登録者数		64 人	52 人	12 人
延べ利用者数	要支援 1	319 人	311 人	8 人
	要支援 2	1,136 人	1,072 人	64 人
	要介護 1	1,851 人	2,181 人	△330 人
	要介護 2	997 人	928 人	69 人
	要介護 3	274 人	127 人	147 人
	要介護 4	104 人	157 人	△53 人
	要介護 5	48 人	101 人	△53 人
	合 計	4,729 人	4,877 人	△148 人

(4) 障がい児通所支援事業

①通所支援事業（児童発達支援事業・放課後等デイサービス）

発達に遅れや障がいのある乳幼児・児童に対し、定期的な通園を通して、基本動作の習得や日常生活に必要とされる能力の発達を促すことを目的に、療育支援提供の充実に努めた。「ことばが遅い」「落ち着きがない」など保護者によってニーズは異なるが、子どもの発達状況を一緒に確認しながら、保護者の気持ちに寄り添うことに努めた。

利用延人数については昨年度と比較すると、コロナの影響で通園を自粛したり大雪のため保護者の送迎が思うように行かず、通園の利用に結び付かなかつたが、放課後等デイサービスについては、昨年度より登録人数が若干増えたため利用延人数が増となった。

	令和2年度	令和元年度	増減
登録児数	135 人	145 人	△10 人
児童発達支援事業 (1日平均)	3,193 人 (13.8 人)	3,532 人 (15.5 人)	△339 人 (△1.7 人)
放課後等デイサービス	298 人	194 人	104 人
合計利用者数延 (1日平均)	3,491 人 (15.1 人)	3,726 人 (16.3 人)	△235 人 (△1.2 人)

②子ども発達支援センター事業（三笠市、月形町委託事業）

発達に遅れや心配のある乳幼児・児童とその保護者が、日常的に適切な相談指導や療育を受ける事が出来るよう、関係機関への情報提供を行い、地域の発達支援体制の充実に努めた。今年度は、延 26 件の相談があり、1 件がつみき園を利用することとなった。またケース検討会やケース会議及び療育講演会に参加した。

□関係機関連携数

令和2年度	令和元年度	増減
7 機関	5 機関	2 機関

□発達支援に関する相談件数（延べ件数）

区 分	市町名	令和2年度	令和元年度	増減
来所相談	三笠市	0人	1人	△1人
	月形町	1人	3人	△2人
電話相談	三笠市	0人	5人	△5人
	月形町	25人	2人	23人
合 計		26人	11人	15人

7 法人運営

経営の健全化を目指すため、法人経営検討委員会を立ち上げ、経営改善計画を策定した。

開催年月日		議題
令和2年7月27日	第1回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長及び副委員長の選出について ・法人経営検討委員会の進め方について ・岩見沢市社会福祉協議会の現状と課題
令和2年8月12日	第2回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・岩見沢市社会福祉協議会の現状と課題に対する改善(案)について ・法人経営検討委員会及び理事会スケジュールの変更について
令和2年9月3日	第3回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・岩見沢市社会福祉協議会の現状と課題に対する改善案について
令和2年9月24日	第4回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・岩見沢市社会福祉協議会の現状と課題に対する改善案及び最終方針について
令和2年10月19日	第5回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・栗沢デイサービスの最終方針について ・経営改善計画(案)完成
令和2年11月19日	第3回理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・経営改善計画の承認
令和3年3月12日	第2回評議員会	<ul style="list-style-type: none"> ・経営改善計画の報告

8 事務局の運営

当会が事務局を担う岩見沢市共同募金委員会及び岩見沢市連合遺族会並びに岩見沢市老人クラブ連合会について、各会の目的に沿った事業の運営に努めた。

9 後援・共催・協賛

事業の後援・共催・協賛により、社会福祉協議会の趣旨普及に努めた。

(1) 後援

行事名等	開催日
いきいき健康フェア	10月24日

(2) 共催

なし

(3) 協賛

なし